

雑品倉庫

第67号



ここにも亦、平和と敬虔と
休みなき精進とがありはしないか

社会福祉法人唐池学園協力会
平成30年7月発行

目次

- あいさつ P 1
- シリーズ連載「千鳥足の価値観」 P 2
- シリーズ連載「野の花のこと」 P 3
- 施設の紹介
 - ・ 児童養護施設 唐池学園 P 4
 - ・ 児童養護施設 強羅暁の星園 P 5
 - ・ 乳児院 ドルカスベビーホーム P 6
 - ・ 里親センター ひこばえ P 7
 - ・ つぼみ保育園 P 8
 - ・ 吉岡保育園 P 9
 - ・ 障害者支援施設 貴志園 P 10
- 平成30年度新任職員紹介 P 13
- 平成29年度決算報告（法人単位貸借対照表） P 14
- 今後予定される大型事業等への協力をお願い P 15
- 平成30年度イベントのお知らせ P 16
- 役員等名簿・編集後記 P 17

裏表紙「各施設の所在地等」



『雑品倉庫の復刊』

理事長 鶴飼 一晴

平素、何かと当法人に対しましてご支援、ご協力をいただいておりますことに心より感謝を申し上げます。この度、恥ずかしながら気分屋で発刊し、何回も休刊を繰り返してきた『雑品倉庫』をここに復刊することとしました。

社会福祉の環境もここ数年で法制度も含め、また、地域社会が社会福祉法人に対する見る目も大きく変わってまいりました。当法人の理念・思想は創立より変わることはありませんが、組織の透明性やガバナンスといったような運営や経営面に関しても公開が求められる時代となってまいりました。当法人もこれからの時代を具体的な絵図に落とし、地域福祉の充実を基本に積極的に事業を展開していく所存です。

そのためには、法人としては情報等を発信していくための媒体として広報誌は欠かせないということになり、広報委員会を立ち上げ定期的に発刊することにしました。

内容は多岐にわたり、利用者の作文、職員の思い、情報提供等、形式に囚われることなく自由筆記で載せたいと思います。また、皆様からのご意見もお聞かせ願えればと思っています。

これからも変わらぬご支援、ご協力をいただきたくお願い申し上げます。

『雑品倉庫の再刊に寄せて』

唐池学園協力会 会長 高松 邦夫

前回の雑品倉庫No.66号の刊行は、西暦2006年（平成18年）ということ、再刊までに早12年の歳月が流れたということになります。この間、法制度の改正などにより職員諸氏が実務に忙殺され刊行が滞ってしまったわけですが、鶴飼理事長を始め皆、決してこの冊子刊行の意義を見失ったわけではありません。

さて、今回、久方ぶりの刊行ということで過去の雑品倉庫を振り返ってみましたところ、西暦1978年（昭和53年）のNo.42号に、善行唐池時代に作られた唐池学園の園歌の紹介記事を見つけましたので掲載します。

誌面の関係で今回は歌詞のみの紹介となりますが、メロディーをご存知の方がいらしたら、昔を思い出して口ずさんでいただけると幸いです。

これまでをずっと、これからをもっと大切に、今回の再刊（No.67号）を機に、今後は定期的な発刊ができるよう協力会としてもしっかりとサポートしていきたいと思っています。

若葉の かおり	若葉の かおり	風雪い かに	遠き未 来に	ああ唐 池の	不屈の 意志は	不屈の 意志は	希望の 星は	長恨未 だ	一、祖 国の 歴史	唐池 学園 園歌
す でに あり	す でに あり	は げし くも	我呼 べば	丘に たち	我に あり	我に あり	天に あり	消え ずとも	影暗 く	作詞 鶴飼 正男

今、私は歴史という各駅停車に乗っている。窓側の席に座っている。外の風景がよく見える。見えるといっても写実の風景ではない。流れる風景を形成しているのは懐古であり、今はこの世にいない人々ばかりの面影である。車窓から見える風景は明治、大正、昭和、平成、の順に流れていく。私は明治、大正の時代にはまだ生を受けていないが、車窓に映る風景のなかには何人も明治、大正そして、私の生まれた昭和の人々が走馬灯のように流れゆく。窓から一番近く見えるのは平成の風景。一瞬に過ぎていく。

平成という時代も30年を迎えたというのに記憶の貯金箱はほとんど空に近い。私の人生の中では印象が薄かった時代なのかもしれない。平成の価値観についていけなかったのか、乗り遅れたのかはわからない。逆に遠くに映る風景は昭和、大正、明治、の風景だ。時間が止まったようで風景は微動だもしない。たつぷりと貯金箱に貯まっている。

「何故だ？」

まずは貯金箱に一番貯まっている大正だ。というのは、単純であるが多分、両親が大正の生まれだからだろう。今一つは、『福祉の何だかを』身をもって薫陶してくれた先輩師匠の方々が大正と同じく大正の人間だからだろう。私は常にこの師匠の周りをうろちょろしていた。福祉も机上ではなく肌感覚で教えてもらった。私の人生のなかで最も充実した、そして面白い時だった。今、こうしておられるのもこれらの師匠のおかげである。

私の誕生は昭和20年代の前半。団塊の世代。この時代に生まれた人間の小中学校の先生はほとんどが戦前、戦中の教育を受けた先生である。これらの先生も大正生まれか、明治生まれだ。

戦前の教育の在り方の是非は別として、この時代の先生は一言でいうと、

『厳しかった。怖かった。』、『筋を通すのが一義』。『曲がったことはダメ』。『弱い者いじめは卑怯で、絶対許さない』。『半端じゃない』。『賞罰教育でも怒られることばかりで褒められたことはあまりなかった。』、『建前より本質』等、あげればきりが無い。でも、心点は『思いやりがあり、優しくかった』。本当の教育者だった気がする。

平成の次の時代がもうすぐやってくる。どのような元号になるか分からないが、名称より中身が大事だ。『形あるものより形ないものを大切に』時代に期待したい。この思想が未来ある国を築いていく基礎になると信じている。

それには教育しかない。

次号は、『本物の教育者とは？』、『人を育てるとは？』を『千鳥足の価値観』風に語ってみようと思います。できたら、新渡戸稲造の『武士道』をお読みになってください。

お楽しみに!!

かつて、唐池学園本園南側に養護施設としては珍しくプールがありました。当時、施設なのにぜひといた声があっても施設だからこそ必要なのだとの前理事長の信念には揺ぎ無いものがありました。そしてそのプールは549プールと名付けられていました。この奇妙な数字はこのプールを奉仕活動として作って頂いた厚木米軍基地の「549」部隊からとったもので、前理事長による命名でした。そこにはお世話になった感謝の気持ちを忘れないようにという前理事長らしい価値観が伺えます。

ところでまた本園玄関前の大きなクスノキもじつはその一つなのです。それは今から約50年近く前の1969年12月、当時、女性の指導員だった霜島由美子さんの退職に際して、その記念樹として前理事長が自ら植えたものだったのです。その時は細い一本の苗木でした。その横には青いペンキで塗った板に白文字で「霜島指導員」と横書きされた立札が立っていました。彼女の後任として就職した僕としてはちょっぴりうらやましくも思えた懐かしい思い出です。

さて、皆さんご承知のようにクスノキの枝や葉は、ちぎるとさわやかないい香りがします。(クスノキ科の植物には高級和菓子に添えられる爪楊枝の代名詞として有名なクロモジ、香辛料でおなじみのシナモンやゲッケイジュ、子どもころニッキといってしゃぶったことのあるニッケイなど、香り高いものが多くあります。またこのクスノキは冬も青々とした葉を茂らせている常緑樹です。ところで冬も葉を茂らせている落葉樹があります。それは何という木でしょう?)

さてさて、このクスノキは、かつて防虫剤として多くの家庭のタンスで活躍した「樟脳」の原料となるものでした。(のちにナフタリンに取って代わられましたが) なつかしさのついでに、昔、学校でノートの下敷きとして使っていたセルロイド、これで作られた小さな舟、そのおしりにこの樟脳をつけて水に浮かべると不思議と前に進んでいくというおもちゃがありました。さてこのクスノキの花もまた目立たないように白い小さな花を咲かせ、いい香りを漂わせます。前理事長がこのようなクスノキを彼女のイメージとだぶらせて記念樹に選定されたとしたらなんと素敵な話ではありませんか。(虫が付かないようにとの願いもあったのかもかもしれませんね) このようなエピソードと共にクスノキの香りを楽しむ葉と花、今思うとこの玄関前のクスノキをもっと身近なものとして園の子どもたちにも伝えていたらよかったと改めて振り返ったことでした。



事務員 大西 律

唐池学園は、周囲に田畑や牧草地が広がり、夜には星空がきれいに見える自然豊かな場所にあります。「子どもたちがのびのびと生活できる」この場所は、職員にとっても居心地のよい場所なのかもしれません。

平均勤続年数 15 年以上（！）唐池学園の職員は勤続 40 年以上の大ベテランから新卒採用 1 年目の新人まで、職種の違い、部屋担当、フリーといった役割の違いはあっても、上下関係はありません。「子どもの幸せのために」という理念を実現するため、ともに考え、実践していく同志です。子どもの養育に関すること、施設の運営に関すること等、全て職員一人ひとりが考え、皆で決めていくことを大切にしています。

このようなやり方が機能していくためには、職員同士のコミュニケーションが欠かせません。日々の小さな気づきや言葉かけはもちろんのこと、職員旅行の他、不定期開催の女子会、なかなか開催されない男子会（過去開催 1 回にして参加率



100%！)、スキーやスノーボードツアー、バレーボール、スポーツ観戦、旅行、買い物 etc・・・仕事以外の場面で職員同士楽しむことが、コミュニケーションや関係性を発展させるきっかけになるようです。まだまだ発展途上の私たちですが、これからもよりよい関係性の職員集団を目指していきたいと思っています。



唐池学園の子どもたちは 6-8 名のグループで生活しています。本園に 6 グループ、少し離れた場所に地域小規模児童養護施設が 2 グループあります。大きい子も小さい子も、男の子も女の子も一緒。担当職員も男女なので、ひとつのグループが大家族のイメージでしょうか。子どもたちは地域の学校や幼稚園へ通い、習い事へ行ったり、部活で汗を流したり、友達と遊びに行ったり、お手伝いをしたり、旅行へ行ったり、アルバイトをしたり・・・あたり前の生活を日々営んでいく中で自立する力を養っていきます。

子どもたちも担当職員も基本的にグループを移動することはありません。勤続年数が長いということは、担当職員が変わらないことでもあります。長い時間をかけて日々の生活をともにしていくことが信頼関係を育み、子どもたちの力になっていくということを心にとめ、職員が生き生きと働き続けられる場所でありたいと思います。

統括主任 梶田 寛人

児童養護施設というと「暗い」とか「怖い」、「寂しい」そんなイメージをもたれがちですが、生活をしている 50 名の子ども達にアンケートを実施したところ、 9 割弱の子ども達が「楽しい」と回答してくれていました。家族と暮らせないのに何故？と思うかも知れませんが、「いつも遊び相手になってくれる、みんながいるから」と子ども達は話してくれます。だから強羅暁の星園は本当に笑いの絶えない、明るい現場になっています！



強羅暁の星園は自然の懷に抱かれ「自然を大切にする」ことを日々、体験することが出来ます。だから夜は満点の星空！そして施設のお風呂はもちろん大涌谷から引いた源泉かけ流しの「温泉」なんです。職員も温泉好きな人は毎日、入ることが出来ますよ！

どんな家庭でも子どもにとって両親が仲良く笑って過ごしている時間は、この上なく安心が得られる時間。だから施設もそんな環境を目指し、職員のチームワークを大切にする 様々な取り組みがなされています。

「明るい暁の星！」を向上させていくためには職員達の子どもに負けない若さと、元気と笑顔が必要不可欠なのです！



辛いことも一緒に乗り越え、子ども達が自信をつけて成長する日々を目の当たりにするこの仕事は、本当にやりがいの尽きない毎日です。昨年度（平成 29 年度）は地域の方々の協力も頂きながら、神奈川県の子供福祉施設対抗の野球大会で優勝！駅伝大会では男女共に入賞！を果たすなど、施設全体が活気に満ち溢れています。野球、サッカー、卓球、バレーボール、陸上、ダンス、演劇、楽器演奏など様々な活動を通して、子ども達の可能性を一緒に広げませんか？ 興味のある方は、お気軽にお電話ください。

○まずは、ドルカスのアピールポイントを挙げてみると・・・

その1 明るい。とにかく明るい。

来客者の開口一番はこれ。だから？もちろん働いている職員も明るい。

その2 本物を使っている。

食器は、プラスチックではなくすてきな陶磁器を使用。

その3 各行事と誕生日のケーキは、毎回違うものが登場する。

誕生日ケーキは、厨房にリクエストするとどんな無茶な注文も受けてくれます。

キャラクターやバス、車や新幹線、似顔絵など（ホームページ随時掲載中！）

その4・・・5月3日「子どもの日の会」

退所児とつながるために、職員総出でボランティアも募って開催しています。来客者は総勢 200 名を超えるので、会食の際は園庭もいっぱいになります。

○次に概要を簡単に・・・

0～2 歳の子どもたち 25 名を 24 時間 365 日預かり、育てています（3 部屋体制で、4 名の小規模ケアも含みます）。子どもにはそれぞれ 1 名の担当職員がいて、交替で寝起きを共にし、子どもが安心して過ごせる場にしたいと思っています。



お散歩の様子
(近くにある大銀杏の木)

職員は、施設長、看護師、保育士、児童指導員、栄養士、家庭支援・里親支援・心理相談員、事務員、洗濯等職員と多職種で、力を合わせて子どもと親支援を行っています。

○そして最後に・・・

ドルカスの職員採用は、ドルカス側が選ぶのではなく就職したい人がドルカスを選んでくることで成立します。だから、入職してからおかしい所があったら教えてほしい、そして一緒に改善しましょうと伝えています。

外部の研修会に数名で参加した際、助言者から「(ドルカス職員の発言は) 金太郎飴ではないですね。」と言われたことがあります。ほめられたと思っています。一方、メンタルヘルスの先生には「ドルカスの人はみんなまじめに考えていますね。誰一人の例外もなく」と言われました。子どものためになることならば誰もががんばっているとのことでした。理念は共通に持ちつつも、個性を重んじあいながら仕事ができるというのがドルカスの魅力です。

職員数が 50 名に近づいているドルカスは、組織の形としてはピラミッド型を取らざるを得なくなっています。長年、フラットな体制で仕事をしてきた私は馴染めずにいますが、中身はボトムアップなままでありたいと思います。(と、最後は私の願いでしめてしまいました。)

平成 27 年 6 月に「家庭的養護推進計画のための取り組み」の 1 つとして開所しました。

担当責任者・スタッフ 2 名・事務補助 1 名の計 4 名がいます。事業の目的のひとつに、里親制度の普及啓発の促進があります。

今回は私たちの仕事の一つを紹介したいと思います。

「里親ってなあに？」

それは、

様々な事情により、自分の家庭で生活することができなくなったお子さんを里親の家庭を提供し心身ともに健やかに養育して下さる方々です。里親は児童相談所と児童養護施設の研修を受け県知事の認定が必要で、子どもの福祉のための制度です。

- * 里親についてちょっときいてみようかな? という方
- * 里親制度を知ってもらうための協力をして下さる方

ポスターを貼れるよ

パンフレットを置いてもいいよ

里親制度について話をきくよ など

ぜひ、ひこばえへご連絡ください。
みなさんに知って頂くための方法を考えながら、子どもたちのしあわせのために、里親のみなさん・社会的養護の子どもたちに携わる関係機関と共働して活動していきます。

伐った木から出た芽を「ひこばえ」といいます。
根っこを愛着にたとえ「根っこを大切によみがえる力」を思いつけました。

所在地：〒243-0405
 海老名市国分南 1-28-12 MS ビル 301
 電話・FAX：046（205）6092
 開所日：月・水・金・土曜日 10：00～16：00
<https://www.sato-hikobae.org/>



「ひこばえ」は唐池学園のシンボルマークです。

保育目標

「保護者とともに丈夫で思いやりのある子どもを育てる」
「子供の持つ力を十分に発揮させながら伸び伸びと遊べるように保育士が積極的に援助する」

つぼみ保育園ってどんな園？ 職員間がとても良い！と、実習生や園に来られた方に言われます。ちょっぴり自慢です。でも喧喧囂囂としたり、一つのことにあーでもないこーでもない、こうしなければ良いのになど肯定的、否定的な意見でなかなかこともしばしば。

ところが、相談なく自然発生でまとまりの良いのが夏のキャンプのゲーム『へぼ抜け』どこにこんなまとまりと結束力があるのかと毎年驚かされます。知りたい方は是非来年のキャンプにご参加下さい。愉快ですよ。



さてまずは職員より子どものことです。
つぼみっ子はとても元気です。一年中、年長児は半袖半ズボン。年少児も薄着で生活、元気っ子です。それ以上にとにかくよく遊びます。走り回り自然と親しみ、友達とゲーム等…一人っ子はいません。

5歳児松組は、仕事の一つに、ごみ・ぞうきん集めがあります。

これは松組しかできず4歳児はじっと見つめています。仕事の役割分担、小さい子をいたわる姿、小さい子はお兄さんお姉さんを憧れの眼差しで見えています。

感染症も保護者の方の早めの対応で広がることなく終わります。細かい規則等ありますがそのたびに保護者会で話し合います。保護者の方の協力なしではできません。

一日保育士体験は、保護者会・職員・子どもが楽しい日となっています。

学校訪問では卒園児の姿を見ることができたり、保護者と久しぶりに会って話したりできます。大きくなった卒園児が訪ねてくれる時はとても嬉しいです。これからも家庭的な温かい保育園でいたいと思います。

つぼみ保育園は子どもが一番大切です。

そして福祉の心なくして私たちの働きはないと思っています。

人を大切にし、未来に繋げていく園でありたいと思っています。



「園庭を整備しました」

吉岡保育園は四季折々の自然に囲まれ、豊かな生活体験や様々な人との関わりの中で、0～5歳児の子ども達が過ごしています。

日々の生活、遊びの中で子ども達が、自分の思いや気持ち、好奇心や意欲を発揮できるような環境づくりを心がけています。



「5歳児の山登り」



「お芋掘り」

様々な生活体験の中でも、四季を通して取り組んでいることは「食とのかかわり」です。種や苗から育てた野菜を使って、栄養士と「いももち」や「スイートポテト」などのおやつを作ったり、食材の皮むきや包丁で切る調理も行います。普段食べている食材や献立が、どのように育ち、どう調理されているのか、自らかかわることで関心が生まれたり、苦手な食材も食べられるようになったりします。

自然の中の体験では、5歳児が山登りに出かけます。ちいさな年齢の頃から、戸外遊びなどを通して、楽しみながら体を動かしてつけてきた体力を生かして登ります。畑で育てたサツマイモのつるを使ってリースを作り、山で拾ってきたドングリやまつぼっくりで飾り付けをすれば、オリジナルのクリスマスリースの完成です。

保育園で楽しめる体験を友達と共有したり、そこから生まれる関心や興味、それにつながる新しい発見や遊びや、地域の方々やボランティアの方の交流など、子ども達の豊かな成長を心がけています。

カビーナ貴志園（施設入所） 「一人ひとりの夢の実現に向けて」

生活支援課 松沢 優香



私たち生活支援課(入所支援)では、利用者の夢や希望を尊重し、実現にむけて支援を行っています。まずは日々の生活を通して担当職員と利用者との間で信頼関係を築き、日常生活に必要な入浴や居室清掃などの生活支援、利用者の交友を広げることを目的とした外出や地域行事への参加などを行っています。どれも地域の方々にもたくさんのご協力を頂いております。



私たちはこれらの支援の過程において一人ひとりと真剣に向き合うことで、その人らしさを知ることができます。そして、支援の積み重ねが利用者の持つ力を十分に発揮できるようになり、夢の実現に繋がることを実感しています。

コペルタ貴志園（日中支援課） 「日中活動での利用者との関わり」

日中支援課 及川 浩

こんにちは。日中支援課では18歳以上の障害のある方（主に知的障害者）を対象に日中活動の支援を行なっています。生活介護事業、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業ごとにプログラムの内容も違いますが、人との関係の築き方や困ったときの対処方法など日々の利用者とのかかわりの中で支援を行なっています。作業内容は自主製品の製造（お茶、紅茶、雑巾、ねこキーなど）、下請け作業（ラッシュジャパン製品加工、電機製品の解体）などを行っており、できる限り1人1人の特性を活かせるよう工夫をしています。また、就労支援にも力を入れており、年2～3人の方が一般就労しています。利用者は作業を通して「やりがい」や「責任感」を持ち、働くことの喜びを実感できるので、今後も利用者の気持ちに寄り添った支援を行っていききたいと思います。



コペルタ貴志園（食品支援課） 「これからも食品で地域とつながる」

食品支援課 松原 英子



食品製造、販売を開始してからおかげさまで15年が過ぎました。手がける商品も増えていき、手打ちそば、パン、弁当、園内給食、ジャム製造と広がっています。弁当は市役所から撮影用の「ロケ弁」の依頼も増え、撮影場面に遭遇することもあります（まれに芸能人に出くわすこともあります）。地域でのイベント販売に声をかけて頂いたことをきっかけに、商品を気に入ってくれたお客様がたくさん来店してくれるようになりました。利用者にとってはお客様に働く姿を見てもらい、「美味しかったわ」との声が直接聞かれることで、「働く喜び」や「やりがい」につながっています。ただ、食品製造においては一つ間違えれば大きな事故につながってしまうため、衛生管理を確実に続けることが大切です。これからも利用者支援、そして地域から信頼をいただける食品製造を行っていききたいと思います。

マーレ貴志園（グループホーム） 「地域生活支援課の紹介」

地域生活支援課 林 愛佳

貴志園のグループホームは、ワンルームマンションや一軒家、一般のアパートを借り上げたタイプなど、様々な住居があります。それぞれ地域での暮らしがあり、職員が各ホームに出向き、健康の管理や身の回りの整理整頓、食事の提供など、その人に合わせて安心した生活が送れるようなサポートをしています。また充実した支援を行うために個別に担当ケースをもち、仕事や人間関係等の相談、生活の質を高めるため外出支援や余暇の支援など利用者の夢や希望を尊重しながら日々支援を行っています。グループホームでの生活が家庭的で安らぎの場となるよう、全職員がアットホームな雰囲気ですべて支援しています。





相談センターゆいまーるは、障害者が地域で安心した生活が送れるよう、行政・福祉・保健医療・教育等の機関と連携しながら支援を行っています。主な業務は、綾瀬市から委託を受けて、在宅生活を送られている障害のある方（家族含む）の生活全般に関する相談を行う障害者相談支援事業や、市内の相談支援事業所の連携や人材育成、障害福祉以外の他制度との連携や地域づくりを目的とした基幹相談支援センターを行っています。



。また、福祉サービスを利用するために必要なサービス等利用計画を作成する指定特定相談支援事業、指定一般相談支援事業として入所施設や精神科病等の退所・退院にあたって支援を行う地域移行支援、在宅生活を継続していくために見守りや緊急時の対応が必要な利用者への支援を行う地域

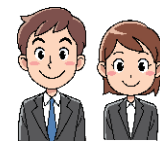
定着支援を行っています。さらに、神奈川県から委託を受けて、県央障害保健福祉圏域相談支援等ネットワーク形成事業、神奈川県精神障害者地域移行・地域定着支援事業を行い、県央7市町村の情報共有や地域課題への対応、精神障害者のピア活動を支援しています。

にじいろ貴志園（放課後等デイサービス）「子どもはみんないいところだらけ」



にじいろは綾瀬市内在住の小学生から高校3年生までの知的障害や発達障害のある子どもが、放課後「にじいろ」に来て事業所の支援員やお友達と一緒に過ごします。本事業所の支援員は男女8人、看護、障害、保育などの得意分野を生かし、子どもの個性を伸ばしていければと思っています。

にじいろの活動は、どの子どもも笑顔で楽しく過ごせるよう創作活動を工夫しています。また、子ども同士のつながりやこころを育てる（自尊心を育てる）ことにも重きを置いており、保護者との連携も大切にしながら支援を行っています。帰り際に「今日はありがとう。今度は〇〇に来るからね」と声かけてくれると本当に嬉しくなります。



所属	氏名	趣味・特技	抱負
唐池学園	松川 愛梨	カラオケ	子どもの思いを汲みとり寄り添う
	南部 理江加	ダイビング	子どもという時間を楽しむ
強羅暁の星園	伊藤 桃乃	ドライブ	子どもに負けたくない、元気に頑張ります！
	白石 亘	バドミントン	毎日、元気な挨拶から頑張ります！
ドルカス ベビーホーム	栗原 結子	冷蔵庫の残り物で料理すること	子どもたちがスクスク成長していくように自分も精神的に成長していきたいです
	横山 美希	ぐーたらしながらテレビを見ること	おいしい料理を一杯食べて、なるべくそのままの形の食物に触れられる機会を作っていきたいです
	中川 真緒	どこでも寝られること おいしい食べ物屋さん巡り	たくさんの楽しいが生まれてくる養育を目指して、子どもたちと関わっていきたいです
つぼみ保育園	尾曲 碧依	洋服やインテリアを見ること、ピアノを弾くこと	子どもたちが子どもたちらしく、のびのびと過ごせるような養育ができる保育者になりたいです
	緑 日南子	映画鑑賞・制作	子ども一人ひとりの興味・関心に寄り添う。
吉岡保育園	祖父江 弥生	旅行	頑張ります！につきます。
	難波 麻衣	バドミントン	自分の出来る事を精一杯頑張る
	濱田 恵美子	バレーボール	子どもにとって安心できる保育士
貴志園	八重樫 譲	料理	笑顔を絶やさずがんばります

【新任職員の特権！？】

今年度の新任職員13名は、4月23日から24日に行われた新任職員研修に参加しました。社会福祉法人唐池学園では、新任職員に対し、福祉人としての心得や権利擁護、職場内における報・連・相等を学んでいただくため、採用直後の4月に、毎年、箱根町で宿泊研修を行っています。今年は、綾瀬吉岡工業会の阿部会長にも講師として参加していただきました。



「理事長の講話の様子」



宿泊先は、なんと！箱根町でも指折りの豪華温泉旅館「ホテル河鹿荘」です。

それぞれの施設で離れて勤務する同期の職員が、一堂に会しコミュニケーションを図ることも大きな目的の1つです。参加した職員の笑顔が素敵な写真「左」をご覧ください。



平成30年度 イベントのお知らせ

それぞれのイベントに皆様お誘いあわせのうえ、是非、お越してください！！

唐池学園主催「第45回 唐池祭」のご案内

日時：2018年10月28日（日曜日）

10:00～14:00（雨天決行）※荒天の場合、中止することもあります。

会場：児童養護施設 唐池学園（綾瀬市吉岡2377）

内容（予定）：バザー、こども主催コーナー、展示コーナー

模擬店（カレー、焼きそば、ジュース、焼き鳥、貴志園パン、etc）

お祭り広場（ステージ発表、子どもクイズ大会、福引き）

貴志園主催「しらさぎ祭」のご案内

日時：2018年9月22日（土曜日）

10:00～15:00

会場：貴志園大駐車場とその周辺（綾瀬市吉岡2381-1）

内容（予定）：ステージプログラム（太鼓演舞、大道芸等）

模擬店（焼き鳥、焼きそば、フランクフルト、ポップコーン等）

プレイスポット（ワークショップ等）

【貴志園】

一服館 【手打ちそば・うどん】 TEL: 0467-76-6206

営業時間：11:00～15:00 定休日：日曜日・月曜日・祝日

1階の店内でお食事できます。（テーブル席26／カウンター席9）



Photo:十割海老天せいろそば



グランドール【パン工房】 TEL: 0467-76-6206

営業時間：10:00～15:00 定休日：日曜日・月曜日・祝日

ご予約・配達も承っております!! ※ご注文・ご予約は、毎週火曜日～土曜日（祝日は除く）9:00～16:00

2階のテラス又は室内でお食事できます。



左の写真は、6月8日にテレビ神奈川の取材を受けたときのものです。



役員等名簿（平成30年7月1日現在）

*敬称は省略させていただきました。

1 役員

(1) 理事（7名）

鶴飼 一晴（理事長）

摩尼 昌子、富岡 貴生、田中 晃、笹野 つる子、佐藤 健、藤岡 陽子

(2) 監事（2名）

長井 晶子、柏倉 正

2 評議員（8名）

手塚 宏子、高松 邦夫、鈴野 敏、山口 晴一、今 壽夫、森谷 充子、

古塩 幸子、服部 和子

3 評議員選任・解任委員（4名）

長井 晶子、阿部 浩行、鈴木 美恵子、稲垣 美千子

4 第三者委員（3名）

照井 和か江、山田 すみ子、天笠 律津子

< 編集後記 >

雑品倉庫は、多くの方に唐池学園のことを知って欲しいという思いから、昭和30年頃、第1号が発刊されました。その後、幾度と休止することもありましたが、この度法人内に広報・研修委員会を発足し、再び発行する運びとなりました。

唐池学園の歴史（history）は、利用者とその家族、福祉関係者、唐池学園で働く職員、そして地域の方々との一つ一つの物語（story）の積み重ねによって築き上げて来ました。

唐池学園を暖かく見守って来てくれた多くの方に感謝しつつ、新たな物語をご紹介して行きたいと思っております。

広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

発行者 社会福祉法人 唐池学園協力会

編集者 社会福祉法人 唐池学園 広報・研修委員会 委員長 富岡 貴生

編集委員 大西 律、梶田 寛人、渡辺 美香、吉田みき子、吉村真由美、小山 信、勝俣 浩之

事務局 神奈川県綾瀬市吉岡2377-□ 唐池学園内（担当：勝俣 浩之）

電話：0467-78-0514 Fax：0467-76-3006

E-mail karaike-honbu@bz04.plala.or.jp

※表紙の絵は、児童養護施設 唐池学園の児童の作品です。

社会福祉法人唐池学園の各施設の所在地等



法人本部・児童養護施設 唐池学園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2377-口

電話：0467-78-0012／0467-78-0514、FAX：0467-76-3006

施設認可年月日：昭和24年4月1日、定員：45名



児童養護施設 強羅暁の星園

所在地：〒250-0408 足柄下郡箱根町強羅 1320-203

電話：0460-82-2853、FAX：0460-87-7275

施設認可年月日：昭和22年6月19日、定員：50名



乳児院 ドルカスベビーホーム

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2380-2

電話：0467-78-1054、FAX：0467-70-3827

施設認可年月日：昭和44年4月1日、定員：25名

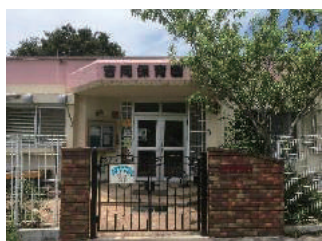


保育所 つぼみ保育園

所在地：〒252-1107 綾瀬市深谷中 5-20-48

電話：0467-78-0641、FAX：0467-79-2908

施設認可年月日：昭和42年5月1日、定員：110名



保育所 吉岡保育園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 1980

電話：0467-78-4324、FAX：0467-78-4365

施設認可年月日：昭和50年4月1日、定員：60名



障害者支援施設 貴志園

所在地：〒252-1124 綾瀬市吉岡 2381-1

電話：0467-78-4178、FAX：0467-79-5119

施設認可年月日：昭和49年9月1日

定員：入所30名 通所40名、グループホーム設置